

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 2階嬉し家		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	平成24年2月28日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自分らしくいきいきと生活する為、利用者が今できることの実現で生き甲斐を感じて頂けるよう支援している。
 ・地域の中で暮らしているという意識を持ち自治会の行事には積極的に参加し顔なじみの関係が築いて行けるようにしている。
 ・職員は学習意欲が高く勉強会に参加したり、資格取得に意欲的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の本位を大切にされた支援が行われている。
 ・地域の中での暮らしに重点を置いた事業所運営が行われている。
 ・商業地域という事業所の立地条件を、利用者の日常生活に組み入れた生活支援が行われている。
 ・年度目標を立て、計画的な事業所運営の取り組みが行われることで、事業所の質の向上や利用者との地域との交流や生活支援に活かされている。。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目の届く位置に掲示している。特に日常生活の中で各自がいきいきと生活するように出来ることを見つけ支援している	わかりやすく表現された理念が作られており、年度ごとにテーマを決めて、事業所運営に活かされている。今年度のテーマは、「地域貢献」としており、地域の中での、認知症理解、介護予防など様々な取り組みが行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し季節事のお互いの行事に参加し合い交流を深めている。(いきいきサロン、交流会、盆踊り、敬老会、クリスマス会)また、買い物や美容院(来園)を利用している。	事業所開設時より、「地域に根ざした事業所」を目指して、地域行事への参加や事業所の広報活動、地域交流を行っており、それらの活動は、利用者の生きがいや、心身両面の健康保持に繋がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流を深める中で地域の方より積極的にボランティア活動をしていただいている。(書き方教室)その中で認知症の特徴を理解しホームを身近な物に感じていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括支援センター、ご家族代表の方々より情報を頂き意見交換を行っている。特に今年度は東日本大震災があり、防災に対する意識が強く地域を含めた合同での防災訓練を行った。	定期的に行われている会議では、事業所の報告が行われ、事業所からの提案に、委員からの助言やアドバイスを受け、防災訓練や地域交流に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や行事の報告などは行っているが積極的に協働関係を築くには至っていない。	運営推進会議の議事録や、地域の中での事業所活動などの報告を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行った。更に月1回のケース会議でリスクマネジメントを行い確認し眠剤の軽減と見直しを医師と相談して取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット事例を話し合い、利用者の状況の丁寧な観察を行うことで、身体拘束をすることなく安全に日常生活が送れる支援に繋がっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会が主催する研修に参加し、伝達講習を行い職員共通の理解を出来るように取り組んでいる。また、マナー委員会でも言葉使いについて取り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者がいるため職員は身近に学ぶことが出来ている。制度についての研修に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけて説明し、家族の疑問等にも丁寧に対応している。契約締結後も十分な理解が得られるよう心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回施設内にて自治会、地域包括支援センター、利用者家族の代表に参加していただき運営推進会議開催している。事業所からの報告や参加メンバーより意見や要望をいただいている。	年2回開かれる家族会には、利用者のほとんどの家族が出席している。また、家族からの要望を利用者の室内に掲示して、日常の支援に活かす試みが行われている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議を職員全員参加で行い、各職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	会議や業務の中で、意見やアイデアが話し合わせられ、実践に結び付けられている。職員からの提案で、利用者の「遠方の故郷への思い」を受け、健康面の検討や関係者の調整を行った上で、故郷訪問に結び付けた事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回人事考課を実施し全職員と面接を行い要望を聞いている。部署や個人目標を設定し、その実現に取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室が担当して、新人研修、ステップアップ研修、フォローアップ研修など計画的に実施し、受講対象者が交代で研修を受講している。また外部の研修にも積極的に参加しケース会議等で研修報告をしてレベルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会に参加しており定期的な会合や協議会が主催する研修や事例検討会に出来るだけ多くの職員が参加し交流すると共にサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートをはじめ関係書類を作成する中で要望をお聞きした。また以前の利用事業所より情報収集をした。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人からの聞き取りが困難な状況であった方もいた為、ご家族との頻回な話し合いの場を設けることで信頼していただけるようになった。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に高齢でもあり急変時の対応を危惧されていた方が多く医療機関の紹介を行う。また家族の要望を最優先するように心掛け柔軟に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能が生かせる様に出来ることを見つけて喜びに繋げるように取り組んだ。また役割があり感謝されることで達成感が得られ意欲が増している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	半年に1回家族会を開催し、活動内容の報告を行っている。また3ヶ月に1回ケアプランの更新内容を話し合っている。定期及び臨時の病院受診、その他様子変化の場合は都度報告している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が多く来園されている為、これまでの関係が維持できている。また以前住んでいた場所や思い出深い土地を訪れて本人の思いを大切にしている。	職員が、馴染みの場や関係者との調整や確認をすることで、継続的な訪問が円滑に行われている。また、地域の人が、ボランティアとして事業所行事の支援に協力するなど、新しい馴染みの関係が構築されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用書の特徴や個性、他の利用者の思いや出来ることを見極めながら、良い関係が維持できるように必要に応じて声かけや支援の配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了した方はいませんが、入院時などは訪問し家族にその時の様子を連絡、報告し不安のない様に対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を聞き日々の生活の中で取り入れて支援している。家族からの情報収集も随時行っている。	利用開始時に丁寧な聞き取りをしており、利用者のフェイスシートとして顔写真と共に記載され、職員間で共有されている。しかし、日常の会話や係りの中で把握された新たな思いや意向の情報が記録として残されていない。	日常の関りの中で把握された様々な情報や思いなどを、職員の共有情報として、利用者のフェイスシートに適宜追記されることを期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中から又は家族知人から情報を得て今までの生活習慣や個々の地域の習わしを日々の行事の中に取り入れている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやアセスメントシートを作成し随時見直ししながら家族職員で本人の全体像を把握し共通理解している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりの中で本人や家族の思いを聞き取り職員間で話し合いプランに取り入れている。	日常生活に即した実践的な介護計画を作成し、実践に繋げている。3か月に1度開かれるカンファレンス会議には全職員が参加し、担当者会議には家族の参加を義務付け、検討や見直しが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の毎日の記録により職員間でケア会議やミーティングの際、情報を共有している。介護計画は日々の中で状態変化に応じた見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や買い物その他外出等の支援を行っている。また本人や家族の希望に応じ施設内で家族一緒に食事をしたり等の支援を行っている。更に季節を楽しんでいただけるような支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム側から自治会に参加し、町内の盆踊り大会やいきいきサロンの活動に地域の一人として参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関から往診をしていただいている。本人が納得していただける声かけを医師にお願いし協力いただいている。また、本人家族の希望により以前からのかかりつけ医に継続して受診されている方もいる。	希望するかかりつけ医の往診により、日常の健康管理が行われている。家族や職員、ヘルパー利用で専門医受診をしている。発熱や体調不良などの突発的な受診は、職員が対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階デイサービスに看護師医が常駐しているので日頃の健康管理や医療面での助言相談、対応を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行、情報提供し混乱のダメージを最小限に抑えるように配慮している。職員による病院訪問や快復状況の確認、家族や医師とも退院計画の相談を行うなど連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期指針を作成し職員全員で施設の方針を共有できるよう意識統一を行っている。また家族や本人に希望等の確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを行っている。	利用開始時に利用者・家族と話し合い、文書化している。状況変化時は、家族の希望を汲み取り、話し合いを重ねながら支援していく方針にしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを職員全員で回覧している。研修会参加や消防署の協力により心肺停止時の対応蘇生法について学んだ。また、AED使用の実施法及びその際の留意点の講習を受けた。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者と一緒に避難訓練を実施している。運営推進会議でも避難訓練状況の報告を行い地域の方々への協力をお願いしている。また、水や乾パン、食料品の準備と個々の防災袋を管理している。	毎月の避難訓練は、火災を想定してベランダへの避難が行われている。消防署参加の訓練では、地域からの参加者と共に、講話を聞き応急手当の実習を行っている。利用者の居室にはタオルや靴下を入れた防災袋を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者一人ひとりの特徴や生活スタイルを尊重している。職員間でもマナーに注意し合い言葉遣いやプライバシー保護、個人情報取り扱いに気を配っている。	一日のスケジュールや声掛け、事業所行事への参加は、個々の利用者の生活歴や個性を大切に、職員間での対応を統一して行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行ったり、複数の選択肢を提示し本人の意向を反映できるよう支援している。また利用者の言葉にならない声をくみ取ることが出来るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースを尊重し料理の手伝いや趣味を生かした小物作りや野菜作りを支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性に応じ好みのヘアスタイルを支援している。訪問美容2カ所が利用でき、家族同伴で馴染みの美容院行く方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に役割を持ってもらい、食事を楽しくめるように利用者と一緒に準備片づけをしている。各テーブルに職員が一人同席し食事を楽しんでいただけるように声かけしながら対応している。	主食と汁物は事業所で作り、副菜は母体法人の給食センターで作られている。食の細かい利用者には、好物のウナギの夕食を楽しむ機会をつくったり、好みの食品や高カロリー飲料を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に食事量と水分量をチェックしている。食事量の少ないときには高カロリー食品を提供している。個々に応じた分量を食べていただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯洗浄の声かけを毎食後行っている。個々の能力に応じたケアを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。2週間に1回ポリデント使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。失敗してもさりげなく本人や周囲に気づかれないように配慮しながら対応している。	支援時の声掛けに配慮することで、失敗や苦痛の軽減に努めている。日中リハビリパンツの利用者が、職員の提案で夜間のみおむつを利用し、安眠が得られるなど、信頼関係が構築された事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳とヨーグルトを提供し排便がスムーズに行えるよう対応している。極度の便秘症の方に対しては主治医と相談しながら対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やペースを大切に入浴を行っている。安全面や清潔保持に配慮しながら出来ない部分については一緒に行っている。	温泉を引いており、朝から夕方までの日中の時間帯に入浴が行われている。毎日入浴する利用者もおり、入浴順の配慮や、湯の張り替えも適宜行われ、介護度5の利用者もシャワー浴での入浴支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて就寝したり休息を取っている。夕食後は団らんや趣味やテレビ本等で楽しくゆっくり過ごして安眠に繋がるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を全職員が把握できるように表にまとめ張り出している。また臨時薬や定時薬の処方の変更になったときは連絡ノートに記載し様子観察状態変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、工作、調理、家事手伝い等個々の特徴にあった役割を見つけている。達成感や満足感が得られるよう感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望を聞き個別レクとして外出や外食する機会を設けている。また散歩や買い物ドライブと宇野機会を多く計画し季節や自然を楽しみ気分転換が図れるよう配慮している。	日常的に、散歩や買い物などの外出の機会がもたれている。自宅では、引きこもりがちであった利用者が、事業所の地域活動への参加から、積極的に外出を楽しむようになった事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお小遣いを個人管理し、買い物に行った際好きな物を購入から支払いまでができるよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置しており、いつでも家族や知人とゆっくり話せるように支援している。また定期的にはがきを出し馴染みの関係を大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はリビングに集まるのが好きな利用者が多く個々に好きなことをして過ごしている。また調理を作る際の香りや音などの生活感を感じることがができる。季節にあった壁画や縫い物作成を支援し楽しく行っている	利用者の作品や、利用者と職員の共同制作の季節を感じる作品が掲示されている。また共有空間で「今、やりたい事」がすぐに出るよう、道具や備品が準備されており、居心地良く過ごせる空間づくりが行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファやテーブルがあり一人または数名で楽しめる空間があり自由に生活している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具や家族の写真を用意し個々の個性に合わせた部屋作りを本人家族が一緒に行っている。	毎朝、職員が清掃に入り、利用者・家族・職員の協力で、利用者の生活歴や趣味などが活かされた居室管理が行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札や馴染みの作品を掲示しご自分の部屋だと分かる様にしている。また利用者の混乱が生じたときには職員間で話し合い解決策を出し合って対応している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 3階楽し家		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	平成24年2月28日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で暮らしていることを忘れない様、積極的に地域の行事に出かけていき参加している。利用者一人ひとりが希望していい暮らしに近づける様に、利用者それぞれ個別な対応を行っている。職員は学習意欲が高く勉強会に参加したり、資格取得にも意欲的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(2階嬉し家と同様)

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念はスタッフルームや食堂などの目に触れやすい場所に掲示し、毎月のケース会議において唱和することによって各自の意識の向上に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の一員として自治会に入っており年間を通じて地域の行事に参加したり地域の方々がホームに来所されたりと交流がある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のいきいきサロンに職員が出向いたり事業所内で地域交流会を開催し、介護保険制度や認知症について地域の方々に説明するなどの活動を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で会議を開催し事業所の活動報告を行い、参加メンバーからの質問や意見を頂くことでサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や行事の報告などは行っているが積極的に協働関係を築くには至っていない。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修やカンファレンスを通じて振り返っている。身体拘束は行わないと言うことを全職員が確認し実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やケース会議において高齢者虐待防止に関する理解を深め虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分説明し理解納得して頂けるよう努めている。ご家族の疑問等にも丁寧に対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回家族会を開催し、意見や要望等を頂きそれを施設運営に反映させている。また個別の担当者会議でもご家族に参加して頂き要望を聞いている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議を職員参加で行い、各職員の意見や提案を聞き施設運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課表やDo - Capシートを活用し職員の努力や勤務状況の把握を行っている。また一人ひとりと面接を行い職員がやりがいや向上心を持って働けるよう支援している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室が担当して職員一人ひとりの勤務年数に見合った各種研修が行われており全員が受講している。外部研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市内のグループホーム連絡協議会に加入しており協議会主催の研修会や交流会に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人の心身の状況や思いを把握し不安な事や疑問に思うことの解消に努め安心して受け入れられるような関係作りを心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご本人の心身の状況や思い、ご家族の思い等を十分に話し合いサービス内容の方向性を共に確認することで関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に必要な支援を見極め様々なサービスの情報提供に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し生活のリズムを大切にしながらご本人の出来ることはして頂くなど共に助け合いながら支え合う関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンスの際には日頃の状況とを細かく伝え、コミュニケーションをしっかりとるようにしている。また状態に変化があった際にはお互いに相談し今後の対応等を決めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や飲食店など昔からの行きつけがある利用者には定期的に継続して利用して頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者みんなで楽しめる時間や気の合う同士で過ごせる時間の提供を心がけ利用者同士がスムーズにコミュニケーションを取れるよう間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで退去者が1名(死亡によるもの)の為、関係を断ち切らない取り組みまでには至っていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発言だけではなく行動や昔の話、家族の話等からもその人の思いを感じ取れるよう心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族、知人の話を聞くだけでなく普段の利用者との会話等からも好きなことや趣味を知り全職員で情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状況や生活リズムを理解する為に日頃から観察やコミュニケーションをしっかりとっている。またバラバラな対応にならないように全職員での連携にも努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族の意向や希望、かかりつけ医からの情報等をもとに職員間で意見を出し合っている。利用者本意の計画になるように担当者が中心になって職員間で話し合い見直しなどを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃より利用者の観察をしっかり行い普段と違うことがあればその場になかった人が見ても理解できるよう時系列に沿ってわかりやすく簡潔な記録を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の状況や要望に応じて通院の代行や病院の選別、外出時の送迎等を行い負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の自治会に入り季節の行事に参加し地域の方々との交流を図っている。習字やおやつ作り等のボランティアにも毎月来て頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。受診の際も家族と連携を取り付き添えないときは職員が代行している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違うことや急な体調変化の際はデイサービスのナースと連携し対応している。また協力医のナースには毎月の往診の際に日頃の状況を詳しく伝える様に心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には普段の生活状況等の情報を医療機関に提供し利用者の混乱を最小限に抑える配慮を行っている。また1ヶ月を超える入院となると施設を退去することとなるので職員による病院訪問や回復状況の確認を行いながら主治医とも退院計画の相談を行うなどの連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に重度化、終末期についての対応をを関係者全員で話し合い、文書化し家族にも説明している。状態変化の時は変化に合わせた対応が出来るよう話し合いを行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し全職員が内容を把握している。消防署の協力を得て心肺停止時の対応、蘇生法を学び、またAED伸しよう方法についても講義を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。毎月1回施設内での防災訓練を行っており年2回は消防署立ち会いでの防災訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月1回マナー会議を行い全職員で話し合い気をつけている。また毎月自己評価をすることにより反省と意識の向上を図り利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度に配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者の発言だけでなく態度や行動等にも配慮している。行事やレクの際には本人の希望で参加、不参加を決めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが利用者のその日の体調や気分によって柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には利用者と一緒に洋服を選び季節季節にあった好みのおしゃれに心掛けている。理美容は馴染みの店や近所の店へ出かけたり訪問美容で定期的に整えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを利用者と一緒に行っている。また毎月ランチレクや外食レクの日などを作り普段の食事では楽しめないようなメニュー等を希望で取り入れている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、食事量がどうしても少ない方に対しては高カロリーゼリー等で栄養補給を行っている。また水分に関して各人の体調や病気に配慮しながら好みの飲み物を勧めることで摂取を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者によって出来ること出来ないことが違うので各人に合わせた声かけ見守り介助を行っている。また定期的に洗浄剤による義歯の洗浄を行い口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間事や利用者の行動により排泄サインを察知しトイレ誘導を行っている。失敗をした時には利用者の自尊心を傷つけないような声かけ対応に配慮している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳や朝食にヨーグルトをつける等日々の食事に工夫をしている。散歩や廊下歩行等を個々に行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者本人や家族の希望で毎日でも入れるようしている。また入浴時間もそれぞれの希望に合わせた時間に入ってもらっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや行事を充実させることにより日中を活動的に生活して頂いている。その日の体調により適度に休息を取ってもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬一覧表を作成し誰が何の薬を飲んでいるのか全職員把握している。またその時の体調に合わせ主治医と連携を取りながら薬の調整を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や昔の趣味や習い事等を把握し、ペランダ園芸や生け花、馴染みの店への外出等の支援を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より近隣への散歩や買い物には利用者と一緒に出かけている。また個人の希望により買い物やドライブ外食、演劇鑑賞等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に外食や買い物に行った際は職員が代金を払ってしまうのではなく利用者にお金を渡し支払いするのを見守る等の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に頻繁には行えていないがお正月には年賀状を出していただいた。電話を自分でかけられない方には職員がダイヤルし相手に繋がったら利用者と交代している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	川柳や生け花等利用者の作品を展示したり行事の写真を飾っている。また食堂には季節の壁画を利用者と一緒に作成し貼っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを置いて仲のいい利用者同士で集まったり、ゆっくりくつろいでいただく環境を作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により自宅より使い慣れた物を持ってきていただき居心地よく過ごしていただけるようにしている。各居室ソファや椅子、テーブルなどもあり面会時に居室でゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ること、分かることを把握し家具の配置等を行い自己の無いように配慮している。		